

# 専門高校の現状と課題 (専門高校長への聞き取り)

- 1 求める生徒像に適った生徒を集めることができているか
- 2 教育課程の編制上工夫していること、苦労していること
- 3 学びに対してミスマッチが生じた生徒への対応と課題
- 4 進路指導の現状と課題
- 5 地元産業や地域内の高校、大学・短大等との連携の現状と課題
- 6 地域ニーズにあった学科が設置できているか
- 7 将来を見通して設置が望まれる学科とは

# 1 求める生徒像に適った生徒を集めることができるか

■概ね求める生徒像に適った生徒を集めることができる。

農業

・中学校の進路指導で、本人の希望より成績（学力）により受験校を振り分けているのではないかと感じることもある。

工業

・中学校での学習内容に、就職に直結した学習や就職を意識した学習がない。キャリア教育は行われているが、高校卒業後どのような仕事に就いているか知られていない。特に製造業に関して中学校教員の知識が少ない。

・中学生体験入学、中学校教員・保護者への説明会を開催している。

商業

・くくり募集の実施により、入学後、生徒の興味、関心、適性等にあった学科選択ができている。

水産

・県外からの入学者の学力が高く、地元からの入学者の学習意欲を高めるなど良い影響がある。

## 2 教育課程の編制上工夫していること、苦勞していること

- 進学を希望する生徒への放課後補習等を実施している。
- 教育課程を編制する上で、（国家）資格取得にも配慮が必要である。
- 限られた教員数でカリキュラムを維持しているため、教員の負担が大きい。
- 施設・設備の定期的な更新が必要である。

農業

・ 学校設定科目「島根の農業」を設定し、本県農業に特化した学習を行っている。

工業

・ 実習系科目ではクラスを5班程度に分け、少人数指導で安全の確保と技術の習得に努めている。  
・ 進学を希望する生徒のために、共通科目と専門科目の選択制を導入している。

商業

・ 身近で英語を活用してコミュニケーションを図る時代が到来することを見込み、英語教育にも力を入れている。



### 3 学びに対してミスマッチが生じた生徒への対応と課題

- 個別に対応している。
- 学びというよりもコミュニケーションの面からのミスマッチが生じることがある。
- 中学校教員に対して、専門高校の教育課程や進路状況等を知ってもらうため、これまで以上に説明機会を設けていく必要がある。

## 4 進路指導の現状と課題

➡ 就職・進学ともに「将来は地元で活躍する」ことを前面に出した指導を行っている。

### 農業

- ・ 就職希望者のうち9割が県内企業等に就職しているが、農業・園芸等の農業団体からの求人が少ない。
- ・ 進学希望者のほぼ全員が推薦で進学している。高校での学びをさらに深めるための進学が多い。
- ・ 中国地方の大学、短大等に進学した生徒の約8割は卒業後、島根県に帰ってくる。

### 工業

- ・ 売り手市場の就職状況が続いていること、県外の手企業からの好条件の求人が多いことなど、地元企業への就職率を高めるのも限界がある。
- ・ 就職・進学ともに工業系に進む生徒がほとんどであり、そのため就職後の離職率が低い。

### 商業

- ・ 卒業生に占める県内就職者・進学者の割合は6割に近い。
- ・ 就職と進学の比率が現行4：6だが、売り手市場で事務職の求人が増えている。

### 水産

- ・ 就職希望者の9割が海洋関連産業に就職している。
- ・ 地元からの進学者をさらに増やし、地元就職へつなげたい。

# 5 地元産業や地域内の高校、大学・短大等との連携の現状と課題

## 農業

- ・地域農業の課題解決、担い手育成について、県・市、関係団体等と連携し取り組んでいる。
- ・島根大学でのインターンシップ、高等教育学校への見学等を実施している。
- ・農業の担い手を育成するためには、学校での授業に合わせて、地域へ出て地域農業を体験し、農家と一緒に作業するなどの活動が不可欠である。また、3年間で10日以上長期インターンシップを実施することも必要である。ただし、農家が求める体験の時期と高校が実施したい体験の時期が異なるといった課題がある。

## 工業

- ・課題研究を中心に企業との連携に取り組んでいる。
- ・ポリテクカレッジや高等技術校との技術指導の連携に取り組んでいる。
- ・島根県内に工業系大学や工学部がないため、大学との連携に課題がある。

## 商業

- ・課題研究を通じて地域の課題や資源を発見し、地元企業と連携した商品の開発やサービスの創造に取り組んでいる。また、開発した商品をデパート等の大規模販売実習で販売し、その結果を連携企業と共有し、商品の改良や新商品の開発を行う活動をしている。
- ・地元の流通を中心とした企業へのインターンシップ、プログラミング言語ルビーやJavaを活用するIT企業への見学、島根大学法文学部・生物資源学部への訪問を実施している。

## 水産

- ・地元漁船の大型化に伴い有資格者の養成が必要となったため、社会人を対象に土日に補習を行い、資格取得のサポートを実施している。
- ・地元漁業者からの依頼により、磯焼け対策、わかめの種苗の生産などの課題研究に取り組んでいる。

## 6 地域ニーズにあった学科が設置できているか

- 必要な学科は概ね設置できている。
- 拠点校の設置が必要である。
- 地域バランスのとれた専門高校の配置が必要である。

工業

- ・ 基本形である機械系（機械科・電子機械科）、電気系（電気科・電子科）、建築系（建築科・土木科）は、各工業高校で必要となる学科であり、概ね設置できている。

商業

- ・ 情報処理科はITによる地域創生に貢献している。

## 7 将来を見通して設置が望まれる学科とは

- ・ 6次産業を専門で学ぶ専門高校あるいは学科
- ・ 福祉科、介護福祉科
- ・ 地域の実態を踏まえた地域農業コースなど地域創生に関わる学科、コースの設置  
(特に中山間地域の高校)
- ・ 女子生徒が学びやすい環境や学科 (女性活躍社会の実現に向け、製造業や建設業では女子生徒の求人を増やしている)
- ・ 新設にあたっては、景気や流行に左右されず、安定的に学校への求人が続く学科の設置が望まれる。
- ・ 急速に発展するA I (人工知能) 技術に対応した学習ができる環境
- ・ A I (人工知能) 技術の進歩により、なくなっていく職業があると想定される中、コンピューター関連の仕事、コミュニケーション能力を活用した仕事は残ると考えられることから、プログラミング、英語教育に力を入れていく必要がある。